

令和7年度第1回南相馬市3区
(小高区・鹿島区・原町区)合同地域協議会 会議録

① 日 時:令和7年4月17日(木)13時30分～

② 場 所:原町生涯学習センター 集会室

③ 委 員:委員数43名

○小高区

出席委員13名

会 長 阿部 貞康	副会長 志賀 由紀夫	委 員 末永 義人
委 員 小林 友子	委 員 半谷 善弘	委 員 本田 博信
委 員 西山 喜代子	委 員 菅原 紀子	委 員 末 芳治
委 員 飯塚 宏	委 員 杉 重典	委 員 半谷 恵美子
委 員 熊田 めぐみ		

欠席委員 1 名

委 員 山本 麻子

○鹿島区

出席委員12 名

会 長 高野 邦弘	副会長 大谷 和年	委 員 今野 愛
委 員 太田 真樹子	委 員 服部 隆男	委 員 高橋 昭一
委 員 草野 繁春	委 員 鈴木 清教	委 員 長澤 初男
委 員 草野 禎夫	委 員 豊田 真由美	委 員 大河内 俊樹

欠席委員 2 名

委 員 北元 幸一	委 員 鎌田 博信
-----------	-----------

○原町区

出席委員11名

会 長 平間 勝成	副会長 志賀 ゆかり	委 員 逢坂 晃
委 員 坂下 悦子	委 員 半谷 眞知子	委 員 田中 章広
委 員 鎌田 文代	委 員 貝塚 大暉	委 員 中村 博之
委 員 藤原 ヒロ子	委 員 長川 清隆	

欠席委員 4名

委 員 小林 五月	委 員 前田 一男	委 員 鈴木 洋道
委 員 鈴木 香織		

④ 南相馬市職員

南相馬市長	門馬 和夫
南相馬市副市長	新田 正英
南相馬市副市長	常木 孝浩
南相馬市教育長	大和田 博行
小高区役所長	佐藤 克巳
鹿島区役所長	涌井 秀之
復興企画部長兼原町区役所長	渡辺 裕
総務部長	丸山 光清
市民生活部長	中本 直記
健康福祉部長	山田 勇人
こども未来部長	原田 美津子
商工観光部長	武田 智芳
商工観光部理事	桑村 明伸
農林水産部長	末永 孝雄
農林水産部理事	北谷 嘉亮
建設部長	長谷川 秀司
総合病院事務部長	森 修一
教育委員会事務局長	宝玉 光之
財政課長	藤原 央行
財政課長補佐兼財政係長	村井 洋幸

商工労政課長		森 政樹
学校教育課教育企画係長		坂下 拓也
学校教育課教育企画係長		松嶋 一憲
学校教育課教育企画係指導主事	中畑 真	
小高区地域振興課	課長	高野 真至
小高区地域振興課	係長	安部 良一
小高区地域振興課	主査	木幡 祐一朗
鹿島区地域振興課	課長	星 憲
	課長	藤原 道夫
	係長	西 昇
	主事	神戸 侑美
原町区地域振興課	課長	戸浪 誠
原町区地域振興課	課長補佐兼係長	館野 幸一郎
原町区地域振興課	係長	北原 繁
原町区地域振興課	主査	中林 順子
原町区地域振興課	副主査	根本 沙也香

○平間会長（原町区）

（1）報告事項に入ります。①令和7年度南相馬市一般会計当初予算について、担当より説明をお願いします。

《 財政課 資料 1 により説明 》

○財政課藤原課長

それでは続きましてただいまの資料の補足といたしまして三つの事業ここで説明させていただきます。

初めに教育関係の方を学校教育課から説明させていただきます。

《 学校教育課 資料 2 により説明 》

○商工労政課森課長

続きまして宇宙関連につきまして商工労政課の方から説明させていただきます。

《 商工労政課 資料 3 により説明 》

○鹿島区地域振興課藤原課長

現在検討中の南相馬鹿島サービスエリア周辺開発について説明をさせていただきます

す。

《 鹿島区地域振興課 資料 4 により説明 》

○平間会長（原町区）

それではただいまの説明について質問を受けたいと思います。質問については、時間の制限もありますので、1人3問までといたします。

なお事前に提出した質問への回答は、回答一覧でご確認ください。再質問がある場合は、全体の質問が終わってからご質問ください。

それでは質問等をお願いします。

○草野繁春委員（鹿島区）

鹿島区には、工業団地が一つもありません。工業団地があると、職場となりうるため近隣に影響を与えます。

鹿島区において工業団地の整備がないことに関連して、具体的な鹿島の振興策、それから活性化をどのように考えているのか、伺います。

○商工観光部企業立地担当桑村理事

国の加速化交付金を使って産業団地の整備は現在、小高駅東側のいわゆるフロンティアパークの整備以外の具体的な計画はないところです。

一方で、活性化・産業振興に関しては、団地を整備ということだけが目的ではなく、企業を呼んできて働く場を作ることが必要です。現在は、どちらかという人の方が足りないという状況になっています。全国的に企業に就職している人がそのまま移住してきて、人も増えていくというところも目指しての産業振興ということだと考えています。

その企業誘致に関しては、産業団地だけではなく、民有地へも企業の誘致活動を実施しています。鹿島区も含めて、市内で改めて産業用地として使える場所を民有地を含めて調べ、適地の情報を収集して、各地域に行ったときに担当が説明をして、企業誘致活動を実施しながら産業復興をしていく、企業を呼んでくるということを行っていきたいと考えているところです。

○草野繁春委員（鹿島区）

産業団地はないけれど、民有地を確保していきたいという考えなのですね。

○商工観光部企業立地担当桑村理事

民有地の紹介は市内全体で引き続きやっているものでございまして、産業団地自体が今小高の開発してるところ以外はある程度埋まっている状況です。

一方で、国や県の補助金などを使って引き続き浜通り全体に要望企業の進出意欲があるため、我々は鹿島も含めて民有地をしっかりと紹介していきます。ただ、企業の

希望がございますので、企業から、例えば高速道路とか国道物流のしやすいところが欲しいとか、一定規模の広さが欲しいといった要望に合わせて紹介をしていくというような状況でございます。

○草野繁春委員（鹿島区）

本当に環境整備が必要だと思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

○長川委員（原町区）

地域協議会で説明を受けた事業について、その後の事業の進行について、進捗管理をしていると思いますが、会議上ではその説明がないことに違和感があります。

令和6年度は事業がどこまで進んで、令和7年度はどういうふうにさらに進めていくかという、具体的な説明がないままでは、何も変化が起きなかった、あれはどうなったのだろうとなることを危惧しています。

地域協議会において議論した事業の進捗についても報告していただきたいです。

○市長

ご質問ご意見ありがとうございます。今回は当初予算の説明の場ということで、限られた時間でもあり主なものを説明いたしました。

鹿島のサービスエリアについては、今日スライドをお見せできるようになり、パブリックコメントを行う際に、皆さんにもっとしっかりしたものをお示しできるように、今最終調整をしています。ここまで2年ぐらいかけています。

小高商業高校についても、具体的には話し合いを始めてます。県の施設ですが、譲渡について協議をしています。

小高の商業高校跡地に関しては、学校の再編の問題が大きく影響しています。

小高の中学校をどうするのか、二つとも残すのか、あるいは義務教育学校のような形にするのか、改めてそうした意見調整も必要になっております。これも1年2年単位で時間がかかる話です。

このように市の事業実施については時間かかるということをご理解いただきたいということが一点あります。

その上で、やはり不安になると思いますので、例えば地域協議会あたりから、これどうなってるって聞いていただけるのがとてもありがたいです。

一方で市も、決算の時期に全ての事業等について進捗状況を出します。数字はわかっているものの、資料としては分厚くなっており、出し方に悩んでいる面もありますので、このような形でご指摘をいただくと大変ありがたいです。

その出し方については、何かアドバイスあれば、お伺ひしたいです。中には予定より遅れてるものもあります。ご意見としては、実施についてばかり説明するのではな

く、ここまでやりましたいうのをしっかりと説明をしてほしいということだと思えます。

ご意見ありがとうございます。

○志賀委員（小高区）

私から二点質問させていただきます。

一点目は再質問になりますが、事前質問の4番の小高区設置のスマートインターについて、いつ頃の完成になるのか。

回答では90%の契約が完了しているとありますが、飯崎の工業団地の完成に間に合うのでしょうか。完成が遅れるのであれば、物価高騰の影響が及ぶのではないのでしょうか。

今後の見通しは回答内容を詳しく伺いたい。

二点目は、フロンティアパークについてです。原町と浪江の間にフロンティアパークがあります。ロケットを発射している場所とも近接してます。

大体何区画ぐらいが造成されるのでしょうか。また、ロケットのサプライチェーンを考えているなどの企業が来るのでしょうか。造成中でありますが、実際手を挙げている企業が本当にいるのでしょうか。そんな話を住民の方から聞く場面が多いと感じております。

○建設部長谷川部長

小高区スマートインターチェンジの場所についてですが、小高区の市街地から西側に中野小高線という県道が走っております。それが西の方に伸びていまして、南北に県道の相馬浪江線いわゆる山麓線がございます。この交差点付近について、事業を進めているところでして、上り線と下り線地の位置が2ヶ所に分かれるような形でございます。

上り線というのは、仙台から東京方面に向かっていく路線なので、それが今言った県道の中の中野小高線、市街地から西に向かって、本線に乗って東京方面に行くという流れの場所がインターチェンジとして1ヶ所、それと下り線、東京方面から仙台方面に向かうものは、今の中野小高線を進んで、丁字路の交差点を少し南側に行ったところから、本線に接続するという、2ヶ所上下分かれた位置になっております。

スマートインターチェンジというETCを使った利用になりまして、間違っただってという方が出てこれるような形、あと本線から降りる方が間違っただけで一旦入ってきたけれどもう1回、本線に戻るといようなことで分岐上の導入が上り線と下り線の2ヶ所にできるような形で進めております。

用地につきましては記載の通り、まず全体の90%程度用地の方を買収が終わっている現状で、残りについても、協議を進めているところでございます。

時期については、ここに記載の通り用地契約が済むそれ以降の工事はNEXCOで、行うことになります。市と協定を結んでいる状態です。

規模感からいうと着手から4年程度かかるものだという見込みでございます。

費用につきましては、NEXCOとの役割分担がありまして、先ほどいった料金所の部分までは市が負担、あと料金所以降については、本線部分になるということでNEXCOと市で協定を結びながら進めているところでございます。

今ほどもお話のあった物価高騰もありますが、この点につきましても国やNEXCOと協議を進めながら進めてまいりたいというふうに考えてございます。

○商工観光部企業担当企業立地担当桑村理事

フロンティアパークに関してのご質問に関しては、現在既に基本計画も公表していますが、その中で約半分第1期工事として、復興創生期間中に頑張っているところでございます。

ただ、全体としては、約23ヘクタールを開発していこうとしている中で、最終的には約14ヘクタールを工業用地として提供したいと考えて、開発を進めているところです。

第2期工事に関しましては、国で第2期復興創生期間後の第3期復興創生期間が示されて、予算の方が示されれば、我々としてはちゃんと申請をして開発をしていきたいというのが全体の今の計画になっております。その14ヘクタールについてどれぐらいの価格で提供を考えてるのかというご質問がありましたけれども、現時点で開発中ですので、担当レベルでの検討としましては、できる限り大きな区画で来ていただく企業にお譲りしたいと考えております。簡単に言えば、14ヘクタール全て使うような大企業があれば、1区画としてお譲りしたいというのが、ざっくりとしたイメージです。

一方で具体的にどうなるのかというところをお話しますと、現在の原町区などで提供している復興工業団地などでは、大体0.5ヘクタールから1ヘクタールの希望で来られている企業が多いです。

問い合わせがある中でも、2ヘクタールから3ヘクタールぐらい使いたいという工場が多いので、14社から20社ぐらいのイメージになるのではないかとというのが現状の見込みとなっております。

これについては、現在県や国が主催する立地セミナーなどで、既に復興フロンティアパークの募集について、こういったところも今後提供できますという話をさせていただいております。需要に合わせて価格を考えていきたいというのが現状です。

まずは価格、その中に宇宙産業をはじめとしてこういった企業を呼びたいんだというところにつきましては、製造業の中でもロボットやドローン、航空宇宙、いわゆる新産業というところを中心に企業立地セミナーなどで募集をかけるときにはお声がけ

をしております。ただ団地について、新産業以外は呼ばないとか決めているところではございません。

今問い合わせを受ける中には、いわゆる建築部材建物を建てるようなハウスメーカーのお問い合わせがあったり、物流企業が関心を示していただいたりもしております。

広く企業の募集の方は進めてまいりたいところですが、地元金属加工業者が昔からありますので、そういったところと取引をしてくれるような企業を特に優先的に募集していきたいというのが現状でございます。

○志賀委員（小高区）

蓋をあけてみたら、誰もいなかったとというようなことがないように、よろしく願いいたします。インターチェンジも含めて、住民に、広報や南相馬チャンネルという形で情報提供をしていただければありがたいと思っております。

○市長

ご質問ありがとうございます。まず、スマートインターチェンジについて9割と申し上げました。10割になっていませんので、今鋭意努力しているところであります。場所の話がありましたが、ホームページには載せていますが、改めて次回皆さんに形を示ししたいと思います。

工事費の話もありましたが、当初の計画と大きく違っておりませんので、物価高騰分はありますが、国もNEXCOもこれで進むものと理解しております。

建設中に3割程度物価が高騰していますので、その分はやむを得ないという認識です。通常の公共事業ですと、皆さんにお示しするときには、代替用地交渉を実施しているものですが、私が市長になったときに、国と交渉した時点では全くの白紙でした。

そういう中で、小高の復興のために絶対に必要だということで、先行して決定したところです。

その中で用地の場所等については、ずっと出せなかったのですが、やはり正式決定するまでは駄目だというようなことがあって、こことこの辺りというのは出ましたが、普段と違うやり方となり時間がかかっております。

間違いなく進めていきますので、そこはご安心いただきたいと思います。

あとは工業団地造成についても、完成までかかりますので、今の時点でここですとは言えません。企業のスピード感から言って、完成間近にならないと契約は難しいです。

10年塩漬けになっては困りますけども、手元に数ヘクタールを置いて交渉できるようにならないと、企業とも交渉できないという面もあります。状況を捉えながら行

っていきたいと思います。

○平間会長（原町区）

三点質問いたします。

一点目は、8 ページにある新規事業で、中学校の屋内運動場の空調設備の設備事業についてです。

ご存知かと思いますが、福島県の公立学校の体育館の冷房率は全国ワーストクラスです。本市の体育館で避難所になっている学校について空調設備を入ってるのでしょうか、これからその計画はあるのでしょうか。近年のような猛暑では熱中症リスクなどもありますので、体育館の冷房率について伺います。

二点目は一点目と関連しますが、小中学校のバリアフリーについて伺います。多機能トイレも福島県は全国ワースト2 位なのですが、南相馬市の状況を教えてください。

三点目は地域おこし協力隊について質問します。この制度は基本的にその地域の定住定着を図る取り組みといわれていますが、南相馬市の状況について教えてください。

○教育委員会宝玉局長

まず一点目、小中学校体育館の冷房の状況でございますが、現時点では入っていない状況でございます。

令和6 年の1 2 月に国の総合経済対策で補助制度が新たにできましたので、今回原町二中、小高中について実施設計後に、工事等を進める予定でございます。現在の計画では、令和1 5 年度までに、学校の体育館、そして避難所となる体育館について、それぞれ整備していくという考えです。

○教育長

多機能トイレにつきましては、各小中学校の校舎には、必ず1 個は設置してございます。ただ残念ながら体育館までは設置に至っておりません。

○商工観光部武田部長

地域おこし協力隊ですが、本市の地域おこし協力隊につきましては、起業型地域おこし協力隊という制度を採用しております。

通常であれば来ていただいて、どこかで働いていただくという意味ですけども、本市におきましては、目的を持って来ていただきまして自分で起業していただくという形をとっております。

そういった関係がございまして、全国的な定着率よりは遥かに高い定着率となっております。

今まで120人ぐらいの方が来ておりまして、その中でも家庭の事情とか、健康の理由で何名かは市を離れましたけれども、それ以外の方は現在活動中だったり、自ら創業したりとかという形で、多くの方が市に残っていただいている状況です。

○鎌田委員（原町区）

先ほど英語の動画では、遊びながら保育の中で先生と5分から10分行っていくことがこれから大切なことだということでしたがこれについて、質問があります。

動画に出ていた英語の発音していた先生は、専任の先生なのでしょうか？それとも保育士なのでしょうか？また、保育士がやるということは、負担となっていないのでしょうか？現在新学期で保育士の役割はとても目まぐるしいんです。

私も園長としては、なるべく仕事を自宅には持ち込まずに、現場で終わらせたいと思っていますが、自宅に帰ってから行う仕事があることもあります。もし英語の発音を保育士が行うものとなると、保育士にとってのどのくらい負担になってくるのかなと今の動画を見て、疑問に感じたところです。

また私達私立幼稚園でも、保育の中で外国人の先生をお願いして、英語の授業それ実施しています。

対応する先生たちが専任なら良いんですけれども、保育士であればしっかりと勉強しなければいけないのではないかと考えております。

そういった勉強の場を市の方で、きちんと時間を取っていたのか、それとも私立幼稚園・保育園には何も情報はなかったのか、これは公立が中心のものだったのか。

もしそうであれば、同じ南相馬市の子供たちにとって、同じくやっていただきたいと思います。同じ財政の中で、こういった取り組みをするのであれば、私立にも声をかけていただくのが、大事ではないかと思うのです。

○学校教育課教育企画係松嶋係長

ご質問の1点目、指導している先生を専任先生なのか、それとも保育士なのかといにつきましては保育士または幼稚園教諭の先生です。

2点目の保育士が教えている場合の負担はないのか、というご質問でございますけれども、子供たちに英語発音遊びの指導するにあたって、まずは先生が正しい英語の発音を身につける研修を受ける必要があります。

正しい研修発音を身につける研修なんですけれども、1人の先生を育てるのに3年半かかる研修を今行っているところでして、ちょうど令和5年度からこの取り組み、研修を始めているところで、今年度でちょうど3年目となり、ようやく1期目の先生が指導できる体制となりました。

負担がないのかとという点につきましては、ご質問いただいた通り、保育士の先生も日々の業務の中で大変苦勞されていると承知しております。

ただ、研修は、週1回オンラインで研修を1時間程度受けていただく内容と、月に1回3時間の現地での研修会で、英語の発音の指導に向けた取り組みにご対応いただいております。その上で負担感につきましては、クラス担任している先生もいらっしゃると思いますので、その部分では各園の方でサポート体制取っていただきながら、研修が受けられるような体制をとっていただいております。

あとは帰宅後に毎日英語の発音の練習は継続するというので、毎日大体20分程度振り返りの研修を各自していただいております。

それほど大きな負担にはならないと考えているところではありますが、受講されている先生方にお聞きする限りやはり研修については負担感があったと意見をいただいているところではあります。

3点目の私立園への拡大についてです。

市でも外国語教育を大切であると捉えています。その上で私立の幼稚・保育園でも、独自の取り組みをしていただいております。

その上で、英語発音遊びについては現在3年目ということで、その効果について今検証しているところです。

取り組みの効果が認められる場合は、ぜひ私立の幼稚園・保育園でも導入していただきたいと考えています。

この取り組みについてご覧いただき、検討を進めていただければと考えております。

○鎌田委員（原町区）

保育士がやらなくてはならないことなのではないでしょうか？各園にそういった先生がやってくるということではできないのでしょうか？

私にも研修を受講されている方々の声が聞こえてきます。

保育士としてやらなくてはならないものとなってしまうと、今の保育士不足もあり、そこまで背負わなければいけないのかと心配しております。

英語教育を重視していくのはとてもいいことだと思うのですが、それを請け負うのが保育士となると、保育士側からすると、いろんな問題が出てくるのではないかとこのところがありますので、よろしくお願いしたいと思います。

私立園にもこれからとおっしゃっていただいたので、市内に3園ありますから、どう請け負っていくかなということだとは思いますが、サポートの先生というのものはなかなかいませんので、保育士の負担について市でも考えていただければと思います。

○今野委員（鹿島区）

教育について、先ほどの国際バカロレア教育推進事業の概要について説明がありま

いたが二点質問します。

まず一点目は、教員育成をどのように進めていくのでしょうか。以前、国際バカロレアの教育導入をするという話を聞いた際に、教員だった方から、「ここまで子供たちに対して熱意を持って取り組む教員が果たして何人いるかというのが大事なことです。」と伺ったため、教員の育成についてどのように考えてどのように進めていくのかというのが一点目の質問です。

二点目は、資料の８ページではこの国際バカロレア教育推進事業に 659 万円とありますが、どのように使われていくのかお聞きしたいです。

○学校教育課教育企画係坂下係長

ただいまご質問いただきました教員の育成をどのようにしていくのかという点につきまして、教員のＯＢの方からの熱意のある先生というお話いただきましたが、こういった教育手法をやっていくには先生方が研修をしていくことが非常に大事です。

このため先生方には、国際バカロレア機構というところの研修を受け、校内で教師同士が話し合っ、て、どういう授業を行うことが効果的か、どういうカリキュラムを作るのがいいのかを先生方が話し合っ、て、授業を研究していくことが必要になります。そういう活動を学校内で繰り返しながら、この先生方の育成を進めていくという形になります。今まで我々いろんな学校を見てきました。公立の学校でも実施しているところがあります。

先生方も最初はどの学校でも、こんなことできるのかと思われるそうです。ですが実際にやってみて、子供たちの反応、変わっていく子供たちの姿を見て、だんだんと先生方が楽しくなってくる、そういうふうにとんどん効果が上がっていくというふうな形になってくるので、最初の一步を乗り越えていくように我々も丁寧にご説明をしていながら、学校の方と調整をしていきたい思っているところです。

２点目の予算の中身についてです。

まずこの国際バカロレア教育推進事業を進めていくにあたり、国際バカロレアのステップとして国際バカロレア機構に申請をして候補校の認定行為があります。

そこに向けていく費用として申請費用など、年会費がかかり、これらのスタッフの方々のサポートが受けられるようになります。

我々もバカロレアの手法をいろいろ研究はしていますが、具体的にどうやっていくのかというのは、専門の方のサポートが必要になります。また、先生方が研修を受ける費用もありますし、またその研修の一環として教育委員会の職員と学校の先生に実際に導入している学校を見に行く費用もこの中に含まれております。

○志賀委員（原町区）

市長からの進捗状況を何らかの形でお伝えしていきたいという話がありました。

私は以前から色々な審査会に出ていますが2年目3年目になると、以前報告された事業、審査会にかかった事業がどのように実施され、現在どういうふうになってるのかという進捗を伺いたい。

できれば報告事項について1～2年たった後で、その事業の現状が知りたいです。議題が少ないときにでも事業の進捗状況をお伺いできればいいと以前から思っていたので、ご検討いただきたい思っております。

もう一点、今報告いただいた教育と、ロケットそれから鹿島についてです。今伺って、新聞で見ましたが、やってるのならば行ってみたいと思って聞いていたところです。

鹿島区のサービスエリアについては、公共事業の審査会で、こんな施設にしたらいいと審議する委員会に参加していました。

それから10年たって、やっと新たに建物ができるというのを聞いて、すごく嬉しく思いましたが、10年は結構長いです。

人を集めるということも大変重要だと思うので、色々な事業を展開していただきたいと思います。希望でございます。

○市長

ご意見ありがとうございます。今お話を伺いまして、地域振興課で少し考えてもらいたいと思います。諮問事項とか報告事項がありますので、半年ぐらいだったら、時間が許せば中間報告をするというのも考えられます。ただ、今一方で地域協議会の諮問事項が多すぎるというご意見もあります。

ですので、一つの案として諮問事項等について、半年とかある程度経ったら、ここまで進みましたとか簡単に報告できるような機会を設けることを考えてください。

せっかく出たご意見ですので、実現できないかどうかを地域協議会の皆さんと相談してください。

特に諮問事項は気になるでしょうから、中間報告できるような形を作してほしいと思います。

あとは、もう一点先ほどの英語教育の話です。本事業は幼稚園小学校とか中学校英語教育やる中で、南相馬市、幼稚園保育所まで広げたいということで始まっています。

南相馬市の場合、公立と私立と同じ立場で保育所・幼稚園も行っておりますので、その上で初めてやることなので、公立が先行して試しに行っているという側面もあります。

先ほどありましたとおり検証して、導入を検討していただく時期だと思います。市としては事業を進めて、広げたいと思っております。

保育士の負担としては、会話ではなくて英語の発音を覚えてもらっています。小学校でも、昔は学校の先生が教えていたけれども、A L Tの外国出身の方が各学校1人くらい配置するということで行っております。そういう意味では、幼稚園・保育所については、取り組みが始まったところです。現場の方と相談しながら進めてまいりたいと思います。

○草野繁春委員（鹿島区）

教育について質問します。先ほど国際バカロレアについて、未知なるものとか、未経験なことどう対応するかという話がありましたが、これをA Iで調べれば簡単ではないかと思いました。

これからますます子供たちは、A Iに頼るようになるのではないかという危機感があります。ですからそういう事態への対応も、考えていかなければならない段階に来ているのではないかと思います。

2点目は、市内の地域間で学力の差ができていないかという質問を事前に提出しました。小中学生の学力テストにおいて地域間で差が出ていないかどうかを把握いただいているのか伺いたいです。

○教育長

まず、1点目のバカロレアで答えのないものを調べるときに、今は生成A Iとか、スマホとかで調べればいいのかというご質問でした。そういう手法もございますけれども、示された答えを鵜呑みにする人間を育てるのではなくて、それを疑う人間を育てたいと考えています。

そのためにも、多様な考えの子供たちが、これは本当にこんなのかという議論をする場を作って、より良い回答をみんなで探していくような授業を作っていく、それがそのバカロレアのイメージとして持っていただければありがたいです。

それから2点目のご質問につきまして、市では毎年2月に小中学生全員に対し中学校5教科、小学校4教科の学力テストを実施しています。

どこに課題があるのか把握しながら、改善に向けて取り組んでいるところです。それぞれの学校に合った対策を講じていますがまず一つは教員が同じような授業をやりたいとベクトルを何とか合わせたいということが一点あります。

国では、主体的対話的で深い学び、昔のような教科書開いて内容を覚えてではない授業をしたいということです。

子供たち、学校だけで不十分なところがありますので、ご家庭や地域にご協力をいただいて、定着の場をしっかりと設けたいということで、去年P T Aの役員の方とお話をさせていただいたところです。

これまではどちらかというと苦手なところを何とか底上げして、一定のレベルにしようという取り組みを重視してきたわけですが、苦手なことをやれというのはつらい

と思います。それよりは、得意なところを伸ばしてあげたい、そしてそれができたんだからこっちも頑張ろうという形で子供たちの意欲を伸ばしながら書く力もつけていきたいと考えているところです。

○議長

ありがとうございました。その他、質問ございませんか。

質問がなければ、以上で議事の（１）報告事項を終わります。

それでは、次に議事の（２）その他に移ります。事務局からお願いします。

○事務局（原町区）

それでは事務局よりご連絡申し上げます。次回の各地区の地域協議会の開催日程についてご連絡いたします。

小高区地域協議会につきましては、５月２８日水曜日午後１時３０分から浮舟文化会館研修室にて開催いたします。続きまして、鹿島区地域協議会につきましては、５月２７日火曜日午後１時３０分から、鹿島区役所２階大会議室にて開催いたします。最後に原町区地域協議会につきましては、５月３０日金曜日午後１時３０分から市役所本庁舎３階第１会議室にて開催いたします。

詳細につきましては後日各区の事務局より通知にてご連絡いたします。よろしくお願いいたします。

○議長

それではその他、委員の皆さんから何かありますか。なければ、これをもちまして本日の議事全て終了いたします。スムーズな議事運営にご協力ありがとうございました。

以上で議長の任を降ろさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局（原町区）

平間会長ありがとうございました。それでは閉会に移ります。閉会の言葉につきましては次回令和８年度の合同会議の開催となります鹿島区地域協議会の高野会長にお願いしたいと存じます。

○高野会長（鹿島区）

本日の会議案件につきましては、全て終了いたしました。これにて南相馬市地域協議会合同会議を閉会といたします。長時間にわたるご協議誠にありがとうございました。

令和7年度第1回南相馬市地域協議会合同会議 会議録

以上のとおり相違ありません。

小高区地域協議会会長

阿部 貞康

小高区地域協議会会議録署名人

志賀 由紀夫

令和7年度第1回南相馬市地域協議会合同会議 会議録

以上のとおり相違ありません。

鹿島区地域協議会会長

高野 邦弘

鹿島区地域協議会会議録署名人

鈴木 清敏

令和7年度第1回南相馬市地域協議会合同会議 会議録

以上のとおり相違ありません。

原町区地域協議会会長

平間 勝成

原町区地域協議会会議録署名人

志賀 ゆかり